

上田高等学校
関西同窓会報

第52号
2021年(令和3年)
1月17日(日曜日)
編集発行
上田高等学校関西同窓会

初めて ZOOM で第 30 回総会を開催



上田高校関西同窓会の第30回総会は、令和2年9月5日(土) ZOOM 会議方式で開催され、会員・来賓の25名が参加しました。総会は10時30分から開始され、まず金子元昭本部長・廣田昌彦学校長・近藤正昭関東同窓会長・小池健一中南信支部長からご挨拶をいただきました。多くの方から「コロナの影響で本部および地区同窓会が総会を軒並み中止にするなか、関西同窓会が ZOOM による開催を行なったことは評価したい」との感想をいただきました。続いて石沢顧問の司会で、令和元年度活動報告・会計報告・監査報告・令和2年度活動計画案・予算案が審議され、挙手で承認されました。また、役員人事は前年と同じメンバーが承認されました(11頁に掲載)。

第2部の講演会は11時10分から約1時間、大阪大学招へい教授の宮坂昌之氏から「新型コロナウイルスと今後どのように付き合うべきか」という演題で講演いただきました。講演内容はP2~3に掲載しています。

この講演のあと ZOOM のチャットで感想を呼びかけたところ、「この状況下で新しい方法で総会を開催され、本当に有り難うございました。宮坂先生のご講演は本当に参考になりました。今後のご活躍をご祈念致します。金子元昭氏(68期)」

「ZOOM で総会が成立することがわかりました。関係者の皆様のご準備に感謝いたします。宮坂先生、わかりやすいご講演、大変ありがとうございました。伊藤清志氏(71期)」「宮坂先生、ありがとうございました。大変明解な分かりやすいお話で、コロナの事なのに楽しませていただきました。室寺万里子氏(79期)」など多くの感想をお寄せいただきました。

なお、ZOOM のホストは荻原靖(74期)・土屋俊夫(83期)の両名が担当しました。

新型コロナウイルスと今後どのように付き合うべきか

大阪大学免疫学フロンティア研究センター招へい教授 宮坂昌之氏

新型コロナウイルスに対する人工的中和抗体の作成

回復者からBリンパ球を精製して、そこから抗体遺伝子を得る

抗体遺伝子を別の細胞で発現させ、均一な抗体を大量生産

得られた抗体にウイルスを中和する能力があるか、培養細胞および感染動物モデルで調べる

重症化を止める治療薬として使える可能性が高い：ゲームチェンジャーとなるか？

イーライ・リリーは第三相開始重症化を止められるようになったら、その後は予防にも使える？ ワクチンより早く実用化できる？ ただし、高価。

強い中和活性を持つ抗体が作成されていて、動物レベルではウイルス排除に有効。

ZOOMでお話される宮坂先生

感染の現状

2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症は、日本では第一波と第二波の流行がありました。9月22日現在では、検査陽性者の累計が78,776名、重症者163名、死亡者が1,499名となっています。一方、海外では、アメリカでは700万人を超える患者が出ており、ブラジル、インドでは400~500万人、ロシアが約100万人という患者数です。このような数字を見ると、日本の感染者数がぐんと少ないのが目立ちます。この差がさらにはっきり見えるのは、感染者数、死亡者数を人口100万人あたりに換算して見た時です。日本を含むアジア諸国は、人口100万人あたりで見ると、欧米諸国に比べて感染者数が十倍から数十倍少なく（インドは例外ですが）、これは死者数でも同様です。日本人を含むアジア人は新型コロナウイルスに感染しにくく、重症化や死亡しにくいことがわかります。

今後の感染の展望

感染の流行は、ほぼ世界のどの国でも、複数の感染の波が訪れています。一度感染が収束したように見えても、海外渡航などで人の動きが増えるに連れて、多くの場合、感染が再び起きるケースがほとんどです。これは、日本でも同様であると予想され、今後、国内では何回か感染の波が襲ってくる可能性があります。しかし、社会の中で、ひとつひとつが感染対策を理解し、多くの人々がそれを着実に実施していること、また、医療側でも感染者への対応の仕方や治療の方法が確立しつつあることもあり、今後は感染の波が次第に小さくなっていく可能性があります。

この点、現在開発されつつあるワクチンがいつ頃実用化されるのか、そしてどの程度の感染予防効果や重症化阻止効果をもつかによって、今後のことが変わる可能性があります。しかし、これまでのワクチン開発の歴史、経緯から考えると、安全で有効性の高いワクチンが作られるまでには、数年間はかかるものと思われます。重要なことは、ワクチンは健常人に投与するものです。副反応の強いワクチンは嫌われ、社会の中で接種希望者がのびない可能

性があります。安全で予防効果の高いワクチンの開発が望めます。

新型コロナウイルスに対する治療薬の開発も現在盛んに行われていますが、有効な抗ウイルス剤として使われているものはまだありません。治療薬の場合、今後有効性が高いのは、新型コロナウイルスに対する人工抗体だと思われます。人工的に作った抗体をウイルス陽性者に投与することにより重症化を抑制する、という使い方です。アメリカ、中国では既に人工抗体が実際に作成されていて、動物実験では良い効果が得られています。アメリカのイーライ・リリー社は人工抗体を用いた臨床第三相試験を開始しているとのことですので、今後の結果が期待されます。

感染の終息の時期はいつ頃か？

この予測は困難ですが、私個人は、人工抗体を含む新たな治療薬の開発、重症患者の治療法の改善により、新型コロナウイルス感染症による重症者、死者の数は、ここ1、2年のうちにかなり大きく減るのではないかと期待しています。そうなると、新型コロナウイルス感染症の恐ろしさは減り、うまく行けば、数年のうちにインフルエンザ程度の病気となる可能性があります。ウイルスが変異をしてより怖い感染症となる可能性は否定できませんが、その確率は非常に低いであろうと考えています。それは、このウイルスはあまり早くは変異しないからです。当面のところ、この感染症は、今と同様か、もう少しおだやかな形で社会に残り、当分の間は、われわれはお付合いをせざるを得ないのではないかと考えています。

今後の課題

このようなパンデミックの時には、報道が正しい情報を提供することがきわめて重要です。ところが、マスコミからの報道には煽り気味のものが多く、一般の人たちに必要以上に「コロナは恐ろしいもの」という刷り込みがなされてしまいました。この一つの原因は、マスコミにおける感染症や科学に関するリテラシーの低さにありそうです。私自身、この間、多くの取材を受けてきましたが、驚いたのは、多くのマスコミの方々がほとんどウイルスや感染症に関する基礎知識がないまま、単なる「耳学問」で情報を形成しようとしていることでした。そのような状況で情報提供をするので、その内容はそのたびに左右に大きく振れることとなり、一般の人たちにとっては何が本当なのかよくわからないという状況が生まれています。視聴率アップを狙うあまり、危ない、怖い、ということだけが必要以上に強調され、社会に不安をもたらす大きな原因となっています。また、政府や公的機関が提供する情報については、わかりやすいものが少なく、科学に関するコミュニケーション・スキルに大きな問題があります。この他に保健所を含むお役所の問題もあります。今後の課題は山積状態であると思われます。(講演では新型コロナウイルスについて具体的にお話いただきましたが、紙面が限られますので「感染の現状と今後について」お書きいただきました。)



宮坂先生が講演以後に新しい本を出版されました。『新型コロナ 7つの謎』(講談社ブルーバックス)です。2020年11月刊。定価1000円+税。

年頭のご挨拶

会長 竹内俊隆 (68期)



皆さん、明けましておめでとうございます。年頭に当たり、本年が皆様方にとって明るく笑顔にあふれた年となるよう祈念いたします。また、同窓会活動へのご協力も引き続きいただけるよう、本年もよろしくお願い申し上げます。

年頭ですので、明るい未来が拓くような話題を取り上げたいのですが、やはり昨年来のコロナの猛威が気にかかります。昨年の年頭あいさつでも、地球温暖化の影響による異常気象のためか、我が故郷の上田でも甚大な台風被害が発生し、上田交通別所線の千曲川にかかる鉄橋が崩落するという信じがたい被害に言及しました。今年も、コロナというウイルスの猛威に世界規模で晒されています。中国の武漢で発生したものが、瞬く間に世界中に拡大しました。明らかに人々の交流が進んだグローバル化の影響です。人間族が今まで以上に自然界の聖域に進出し、これまで接触することがなかった各種病原菌と触れる機会が増えたのかもしれませんが、くわばら、くわばらです。

東京オリンピック・パラリンピックも一年延期されましたが、今年こそ開催可能になってほしいものです。日本人ばかりでなく、全世界のアスリートが全力で頑張る姿を見て、元気を取り戻したいものです。そして、コロナの猛威が早期に収まることを願うばかりです。皆さん、健康第一で頑張りましょう。

ZOOM総会開催のいきさつ

幹事長 隅田修一郎 (64期)

毎年9月第1土曜日に開催している総会・懇親会は、会員にとって皆と酒を飲みながら語り合える楽しみの場であり、2020年も予定通り計画を進めていました。しかし、2月になって新型コロナウイルス感染が問題となり、人との密なる接触がはばかれる状況となってきたため、予定通りの開催と中止の2本立てで準備を進めることとし、どちらにするかの判断は7月初旬の役員会で決めることにしました。

そして7月初め、新型コロナウイルスの感染状況は第1波が過ぎ、総会開催地の大阪でも毎日の感染者数が一桁で落ち着いていたことから、専門家の意見を参考に万全のコロナ感染予防対策を講じて予定通り総会・懇親会を開催することを決定し、同窓会報にもその旨を記載して広報しました。

しかしその後徐々に感染者が増加し始め、7月下旬には一日100人を超え、一週間後には200人を超えたため、大阪府から府民に「5人以上の宴会・飲み会は控えること」との要請がなされました。状況の変化を受け、再度役員全員の意見を確認した結果、懇親会は断念するが、総会とその後の免疫学専門家の宮坂昌之先生による講演はインターネット開催が可能であることからZOOM利用の総会を開催することになりました。

ZOOMはこれまで役員会で使用実績があります。そこで、参加頂く皆様へのZOOM導入マニュアルを作成・配布すること、大人数対応のため2名のZOOM担当等を決定しました。その後、ZOOM総会に向けてご参加頂いた皆様には多大なご協力を賜り深く感謝致しております。有難うございました。

コロナ感染拡大で大きな制約を受けています

上田高等学校長 廣田 昌彦



私は教頭として在籍しましたので、これで上田高校に5年間お世話になります。長く務めるにつれ、ますます本校の魅力と同窓生のみなさんの母校愛の強さを深く理解するところです。今後ともよろしくお願いします。

さて、コロナウイルスの感染拡大にともない、2月末から長く休校が続き、卒業式も入学式も特別な措置をとりながらの実施となりました。6月ようやく生徒の登校が始まりましたが、それまで先生方は動画を配信したり、クラウドに生徒をアクセスさせたり教材を郵送したりして、学力保障に取り組みました。

また、平素の学校の教育活動も大きな制約を受けています。ご存じのように高体連や高野連、高文連の大会は軒並み中止になりましたし、吹奏楽班の定期演奏会やコンクールもなくなってしまいました。さらに松尾祭も例年のような開催はかなわず、台湾への研修旅行も中止になりました。この3月に予定されていたボストン、フィリピン、カンボジアへの渡航研修もできませんでした。

経済的な損失についてはそれを正確に把握し、今後を予測する方法もありますが、今回学校が被った教育機会の意義深さについての被害を、どのように計上し、何で補填したらよいのでしょうか。このコロナ禍を経験した若者が、どのように自らを律し、未来についてどんな教訓を導いたらいいのだろうかこのごろよく考えますが、それについては今後機会をとらえて生徒諸君に語りかけていきたいと思っています。

5年間続いた SGH 事業は昨年度で終了しました。その後、長野県教育委員会はワールド・ワイド・コンソーシアム構築事業を文科省に申請し、上田高校はその拠点校として三年間の指定を受けました。今後も探究活動や海外研修、海外の教育機関と連携をとりながら高校生国際会議など、刺激的な教育機会を実現してまいります。

同窓会が創立120周年を祝う記念事業として取り組んでいただいたお堀のしゅんせつ、校内管理諸室の空調設備の設置等は、多くの同窓生の皆様のご厚志により完了しました。今度学校にいらしたときは是非、お堀をご覧になっていたきたいと思います。文化財としての堀や堀、古城の門の保全方法につきましては、今後とも関係方面と方法の検討を重ねてまいります。同窓生の皆さまには、本事業にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございました。



書道班の新型コロナウイルス終息祈願の書。松尾町の展示スペースに掲示された。「学校長ブログ」
2020. 11. 25 より

離れていても 心はつながる

～ 台湾の高級中学とオンライン海外研修 ～

WWL (ワールド・ワイド・コンソーシアム構築事業) 推進係 高野芙美先生

本校では毎年2学年全員が11月末に4泊5日の日程で台湾へ研修旅行に出かけます。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今年度の研修旅行は渡航が中止となりました。実際に現地に赴くことはできませんでしたが、11月～12月にかけて、2学年全員が台湾研修旅行で訪問予定だった4校の高級中学とGoogle Meetを使ってクラスごとオンライン交流を行いました。



台湾の高級中学と交流する上田高校生

交流先は、上田高校の姉妹校である国立苗栗高級中学(苗栗県)、国立新竹女子高級中学、国立科学工業園区実験高級中学(新竹県)、私立延平高級中学(台北市)の4校で、いずれも地域のトップ校です。

各校の先生がたのご協力により、各クラス2回ずつ交流の機会を設けていただきました。4校それぞれ交流内容が異なります。各校5人ずつのグループに分かれ、お互いの学校や町の紹

介、学校生活についてプレゼンテーションとディスカッションや、台湾のスイーツと日本のお好み焼きの作り方をそれぞれ教え合う”Cooking Journey”と題したライブ調理実習を行ったクラスもありました。

今回の交流会を企画運営する生徒スタッフを募ったところ、多くの生徒が集まりました。両校のグループリーダーたちは事前にオンラインで事前ミーティングを行い、メールのやり取りをしながら準備を進めました。校内のネット環境や設備が十分整わない中、私たち教員もオンライン会議ができる場所の確保、音声やカメラの接続テストを重ね、台湾側の先生方とも何度もオンライン会議やメールでのやり取りを繰り返しながら交流当日を迎えました。

オンライン会議をするのは、今回が初めてという生徒がほとんどでした。例年は、台湾での高校交流に向けて、ポスターや歓迎式などで披露する合唱などを準備するのですが、今年は発表プレゼン資料の作成に加え、Google Meetの使い方、画面共有の仕方など授業内で何度もリハーサルを行いました。



交流先の新竹女子高級中学の生徒たち

交流初日を迎え、少し緊張の面持ちで PC 画面を見つめる生徒たち。しばらくすると台湾からの通信が繋がります。画面に台湾の高校生が写った瞬間に思わず「わ！つながった！」の聲が沸きあがります。オンラインならではの感動です。交流時間はあっという間に過ぎていきます。多少の機械トラブルはありましたが、そのような窮地をどう乗り切るかも経験です。英語、日本語、台湾語、中国語（たまに筆談&ジェスチャー）を使いながら、コミュニケーションを図り、カメラ越しに LINE やインスタグラムの ID を交換するなど、思い思いの交流を楽しんでいました。

ニューノーマルになりつつあるこの学びのスタイル

「今年はオンラインで残念だったね・・・」という声も聞かれますが、残念どころか、むしろオンライン交流ならではの経験ができたのではないのでしょうか。例年は 1 日限りの交流ですが、複数回、長期間、現地の高校生たちと交流を図ることができました。ライブ調理実習では、同じ味・同じ香りも（たぶん）共有できました。複雑な歴史を経てきた日本と台湾ですが、過去に学びつつも、これからの世界で活躍する若者達の活発な交流に感動を覚えた瞬間でした。

今年の 7 月には昨年度 3 月に渡航予定だったボストンスタディプログラムもオンラインに切り替えて行いました。オンライン研修の実施に当たっては、われわれ教員もはじめての経験であり、手探りで進めています。この逆境を転機と捉え、ニューノーマルになりつつあるこの学びのスタイルを今後も研究して参りたいと思います。

< 母校社会講座への協力 >

2020 年 8 月 28 日（金）1 年生対象の「課題研究入門講座」が開かれました。講座はオンライン接続で行われ、講師の同窓生 14 名が全国各地から一度に接続し、同時に 14 講座を 2 回開講しました。関西同窓会から荻原靖さん（74 期）と、堤宏記さん（79 期）が参加しました。今回その内容を紹介させていただきます。

企業の社会的役割とは何か？～『地域』の視点で考える

荻原靖（74 期）

昨年に続き、母校の一年生を対象に「課題研究入門講座」の講義のひとつを担当させていただきました。当初よりコロナ禍のもとでオンライン授業になる可能性も含め打ち合わせをしていましたが、残念ながら当日は上田に足を運ぶことができませんでした。感染防止を徹底し、教室に入る生徒数を少なくしたため、休憩をはさんで同内容の講義を二回おこないました。これは、一回目に横道にそれた話も二回目にも入れるなど少々気を遣うことになりました。

私の担当区分は「都市・ビジネス」で、講義テーマは「企業の社会的役割とは何か？ ～『地域』の視点で考える」と題して、昨年同様に主に地域に根差す中小企業にスポットを当てたものにしました。以下に概要を記します。

中小企業は、経済を牽引する力であり、社会の主役である

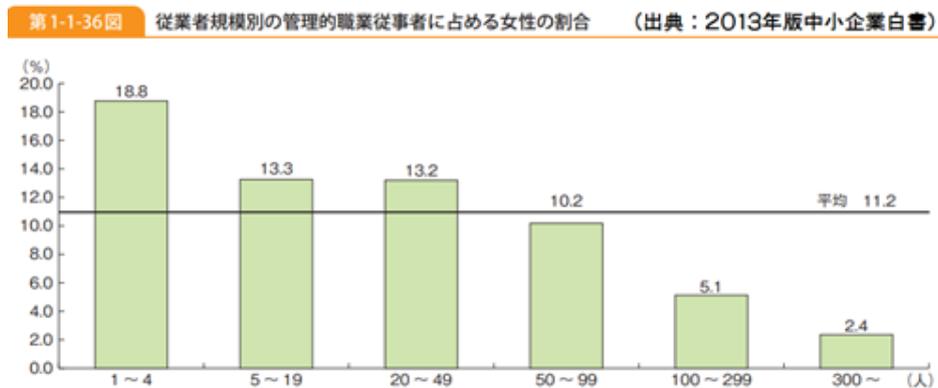
これは、「中小企業憲章」（2010 年に閣議決定）の冒頭の一文であり、この憲章は中小企業に関する政策・施策について政府の基本方針を示したものです。

中小企業は、企業数では全国で 99.7%（約 358 万社）、従業者総数は 68.8%（約 3220 万人）を

占め（2020年版中小企業白書）、製造業の出荷額で46.8%、付加価値額で51.7%（2018年工業統計速報）を、卸売業の販売額で63.5%、小売業では69.3%（2016年経済センサス）を担うなど、統計から見ても日本経済・社会に欠かせない存在です。

グローバル経済の下、国内では地域社会・経済の疲弊が問題となっていますが、中小企業が地域に根ざして事業を継続・発展させることが、雇用を守り、それら諸課題の改善に役割を果たすであろうことは、このデータからも明らかです。

例えば、政府でも近年の課題とされている女性の管理職等への登用、高齢者の雇用、障害者の雇用など、いずれも規模が小さい企業ほど実施率が高いという傾向があります。



従業者規模別の管理的職業従事者に占める女性の割合

また、地域社会においては、中小企業経営者や社員が伝統文化の担い手として、またPTAや町内会、消防団などの地域を支える組織の担い手として多数参加しています。

意欲ある企業家の経営の下にある中小企業は、その規模に関わらず積極的に社会的役割を果たそうとしていることを知ってもらうため、企業活動の事例もまじえてお話ししました。

なお以下に、講座の冒頭で生徒に回答してもらった設問をご紹介しますのでご参考にしていただければ幸いです。

■ 中小企業認識調査

質問1. 長野県内の企業を規模別にみたとき、中小企業（会社と個人事業者）の比率は？（民営・非一次産業、単位は%）

選択肢 A:69.8 B:79.8 C:89.8 D:99.8

質問2. 長野県内に大企業は何社ありますか？（本社所在地として）

選択肢 A:36 B:136 C:236 D:336

質問3. 長野県内で働く人のうち中小企業で働く人の比率は？（100%=約62.5万人）

選択肢 A:65.5 約41万人 B:75.5 約47万人 C:85.5 約53万人 D:95.5 約60万人

正解 質問1 : D(99.8% 73,189社) 質問2 : B(136社) 質問3 : C(85.5% 約53万人)

「人は何のために働くのか」

堤 宏記（79期）

今回の講座にあたり、上田高校が、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム支援事業の開発拠点校に指定された事を知りました。その中で、イノベーティブでグローバルな人材に求める資質として、①未来の新しい価値を創造する力、②世界に通じる広い視野、③一度の人生をどう生き抜くかを構想する力、の3つが掲げられており、「人は何のために働くのか」というテーマの選定に至りました。

「何故働くのか？」このテーマは、私が企業の新人教育として、毎年入社式初日に、問いかけて来た質問でもあり、企業教育の実践しながらに、その一部を体験して貰う授業を行いました。はじめに、企業紹介や、コロナ感染症対策、SDGs への取り組みに触れた上で、自身の過去と今、未来を知る3つのワークショップを行いました。

名前に付けられた『親の思い』を知る

まず、過去を知るワークショップは「^{みょうせんじしやう}名詮自性」の学習です。「名詮自性」というのは、名は体を表し名前は人の本質・本性を表すとの仏教語です。事前課題で自身の名前の由来を調べて来て貰い、それをワークシートにまとめ相互に発表してもらいました。

因みに私の名前「宏記」(こうき)は、宏が、ゆたかで大きい・ひろい意です。記は、記(しる)す・順序よく整理し書きとどめる意です。この私の名前にはどんな『親の思い』が込められているのでしょうか。私の場合、「宏」は、心にゆとりのある人になってほしいという願い、「記」は、広く見聞をして前向きに学び、それを記す文学の才能に恵まれた子になってほしい、心に刻み込む思い出をたくさん作ってほしいという願いです。

このように自分の名前から『親の思いの込められた名前の真意を知り、その名に負けないように真っすぐに、伸びやかに成長して欲しい』というメッセージを贈りました。

自分が大事にしたい価値観を発見する

次に、今を知るワークショップは、自分が大事にしたい価値観を発見する学習です。オバマ前米国大統領のメンター(助言者)作家ジョン・マクスウェル氏の『38の価値観・アイデンティティの法則』の演習です。責任・達成・権力・平衡・変化・健康・楽しみなど38の価値観の中から大切なものを選び、なりたい自分の姿を定めてもらい、『生涯ブレずに生きて欲しい』とのメッセージを贈りました。

未来を知るワークショップ

最後に、未来を知るワークショップでは、有名なイソップ寓話「3人のレンガ職人」や「NASAの掃除人」、「ハーバード大の学生アンケートと10年後の調査エピソード」等を紹介した上で、「マンダラート」手法を使って将来の目標設計を演習しました。マンダラートとは、曼荼羅模様のマス目を作り、そのマス目一つ一つにアイデアを書き込むことです。事例として、大谷翔平選手が高校1年生の時に立てた目標達成表を例示しました。ここでは『目標のある人生を歩んで欲しい』というのがメッセージでした。

講座を通じて問いかけた「人は何のために働くのか」の答えは、『実は正解は一つでは無く、人の数だけあって良い。今は勉強を本分とする皆さんは、将来何者にもなり得る自由な選択肢を手に行っている。だからこそ素晴らしい未来を手にするため、良い目標を持ち、それを実現する努力をして欲しい』との講師メッセージで締め括りました。

受講した生徒の感想

講座の感想は、「人生は気の持ちようで中身はガラッと変わる」「人生の目標や計画の有無で、収入を始め結果は全く違うのだ」「今の自分が自身を何も知らないという事がわかり、今後何をすべきか自己決定に大いに役に立つ講座だった」「夢を持って将来を考える事で人生の道筋が見えて来るんだ」「何故働くのか答えはたくさんあるが、自分らしい目標をもって生きる事がその答えだと思った」「目標を明確に書き出す事が目標を得て実現する一歩だ。前回一斉考査で悔しい思いをした、講座活用で次回は満足する結果を手に入れたい」「帰ったら今日の話をお忘れしない内に自分の目標を書き出しておきたい」等の感想を頂き、稚拙な講師メッセージではありましたが、母校の生徒の皆さんの心に、少しは響いていた事を嬉しく思った次第です。

上田高校関西同窓会令和元年度 活動報告 (令和元年9月1日～令和2年8月31日)

令和元年

9月7日(土) 第29回関西同窓会総会・懇親会を開催 会員22名 来賓5名

会場 大阪コロナホテル

講演会「長野県の中小企業の現状と将来展望」

講師：シナノケンシ株式会社取締役社長 金子元昭氏

10月29日(火) 1年生対象社会講座への協力 ビジネス・都市分野 荻原 靖氏(74期)

10月19日(土) 秋の文化交流会 『伏見桃山 歴史ロマンの探訪』 参加者9名

11月9日(土) 上田高校同窓会会員大会に荻原会計長が出席。出席者約302名

11月16日(土) 中南信支部第26回総会に土屋広報委員長が出席。出席者約50名

令和2年

1月17日(金) 関西同窓会報第50号発行

会報を電子化しメールのある会員にPDFファイルを送信した。メールのない会員および紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付した。本部および他支部には、PDFファイルを送信した。

1月18日(土) 第1回役員会。出席者8名。

2月15日(土) 第13回文化サロンを開催 参加者：10名。

テーマ 『郷土の先覚者赤松小三郎』 講師：関口貞雄氏(48期)

5月16日(土) 第2回役員会。出席者10名。(ZOOMによるオンライン開催)

7月4日(土) 第3回役員会。出席者11名。(ZOOM開催 宮坂昌之阪大名誉教授も参加)

7月17日(金) 関西同窓会報第51号発行

発行部数は500部(関西同窓会会員430部、事務局用70部)

本部・関東同窓会・北海道同窓会・各支部へはPDFファイルを送付

8月2日(日) 第4回役員会。出席者11名。(ZOOM開催 宮坂昌之阪大名誉教授も参加)

上田高校関西同窓会令和2年度 活動計画 (令和2年9月1日～令和3年8月31日)

(1) 令和2年9月5日(土) 第30回総会・講演会を開催する。(コロナ対策で懇親会は中止)

ZOOMによるオンライン総会および講演会を実施

講演 「新型コロナウイルスと今後どのように付き合うべきか」

講師 阪大学免疫学フロンティア研究センター招へい教授 宮坂昌之氏

(2) 広報委員会編集による関西同窓会報を年2回(1月17日、7月17日)発行する。

1月号については、PDFファイル(ワード)を作成し、メールのある会員に送付する。紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付する。(土屋広報委員長、石沢顧問)

(3) 文化委員会主催による文化事業を年2回開催し、会員相互の交流を促進する。

秋の文化交流会(令和2年11月7日) ※コロナ感染者増加傾向を受け中止した。

「紅葉の名所 二上山山麓の古刹 当麻寺・石光寺を巡る」

(4) 第14回文化サロン 令和3年2月27日(土) 13:00～16:00

テーマ 「部首+音符」で覚える漢字の学習方法 会場 ホテルアウイーナ大阪

講師 石沢誠司氏(60期) 関西同窓会顧問

(5) 上田高校同窓会本部会員大会をはじめ、関東同窓会総会、中南信支部総会などに代表が出席し、交流を深める。 ※令和2年の上田高校同窓会会員大会、中南信支部総会は中止

(6) 母校社会講座への協力 令和2年8月28日(金) 13:00～

ビジネス・都市分野① 荻原 靖氏 (74 期) ビジネス・都市分野② 堤 宏記氏 (79 期)

(7) 30周年記念行事

- 1) 「上田高校関西同窓会30年の歩み」を作成
- 2) 同窓会報のバックナンバーのデータ化と公開

(8) FACEBOOK などの SNS により会員交流の場づくりの拡充を行う。(土屋広報委員長、他)

(9) 上田高等学校の生徒が文化・スポーツなどの分野において、近畿地区で活躍する場合は応援する。

令和2年度 上田高等学校関西同窓会 予算案
期間(令和2年8月1日～令和3年8月25日)

収 入		
科 目	2年度予算案	元年度実績
前期繰越金	589,768	416,437
総会費収入	0	168,000
年会費	170,000	184,000
特別年会費	30,000	20,000
雑収入	100,000	150,000
利息収入	0	1
次期総会参加費前納金	70,000	14,000
次期総会祝金	0	100,000
合 計	959,768	1,052,438

支 出		
科 目	2年度予算案	元年度実績
総会費用	50,000	240,306
会 報 費	180,000	132,163
通信費	2,000	0
渉外費	100,000	51,320
事務費	15,000	4,000
設立30周年記念事業費	50,000	0
雑 費	30,000	20,881
予備費	30,000	0
次期総会参加費繰越分	70,000	14,000
次期繰越金	432,768	589,768
合 計	959,768	1,052,438

上田高等学校関西同窓会 令和元年度 役員名簿

会 長 竹内 俊隆 68 期 副会長 金澤 信男 67 期
 幹事長 隅田修一郎 64 期 副幹事長 佐藤 則一 70 期 堤 宏記 79 期
 会計長 荻原 靖 74 期 副会計長 尾崎 忍 76 期
 監 事 清水 正博 67 期 顧 問 石沢 誠司 60 期
 企画委員会 委員長 尾崎 忍 76 期(兼)
 隅田修一郎 64 期 金澤 信男 67 期(兼) 上記役員全員
 広報委員会 委員長 土屋 俊夫 83 期 石沢 誠司 60 期(兼)
 文化委員会 委員長 武舎 一夫 73 期 隅田修一郎 64 期(兼)
 学年幹事 小泉 孝雄 49 期 半田 仁志 50 期 翠川 健彦 51 期 大瀧 忠長 52 期
 荒井 正自 53 期 清水 克正 54 期 若林 忠之 55 期 大野せき子 56 期
 中嶋 巖 57 期 白井 彰彦 58 期 伊倉 邦人 59 期 山本 努 60 期
 黒岩 屹 62 期 丸山 文夫 64 期 恩田 隆 65 期 金澤 信男 67 期
 知野 武文 68 期 伊藤 秀一 70 期 中村 智子 72 期 武舎 一夫 73 期
 荻原 靖 74 期 尾崎 忍 76 期 戸田 有一 79 期 土屋 俊夫 83 期
 近江 裕之 85 期 高橋 路子 88 期

<文化サロン>

漢字をいかに効率よく覚え、そして忘れないか

～「部首＋音符」で覚える学習方法～

現在、日本人が使用する漢字のうち重要なものとして2136字が常用漢字として定められています。2000を超える漢字をバラバラに覚えていると忘れやすくなります。一字一字をつながりをもって覚えてゆくのが大切です。最近パソコンやスマホの普及で漢字を手書きする機会が減り、年を重ねるにつれて漢字を読めるけれど書けない方が増えています。

漢字を効率よく覚え、しかも忘れにくい方法がないものか。この課題に答えるのが漢字音符による学習です。漢字を覚えるときに、「漢字を分解し、部首と音符の合体字として漢字を覚える」。これが漢字を効率よく覚え、そして忘れない方法です。

今回の文化サロンでは、関西同窓会顧問の石沢誠司氏が昨年2月に刊行した『音符順 精選漢字学習字典』をテキストにして具体的な覚え方を説明します。最近、漢字を書けなくなったという皆さん、是非この機会にご参加ください。

なお、コロナ感染の状況によってはZOOMによるオンライン開催となりますので、お申込みの際にご確認ください。

【テーマ】 「漢字をいかに効率よく覚え、そして忘れないか」

【日時】 2021年2月27日（土） 午後1時～4時

【場所】 ホテル・アウイーナ大阪 207号室

〒543-0031 大阪府大阪市天王寺区石ヶ辻町 19-12

<アクセス> 大阪上本町駅から徒歩3分・地下鉄谷町9丁目駅から徒歩8分

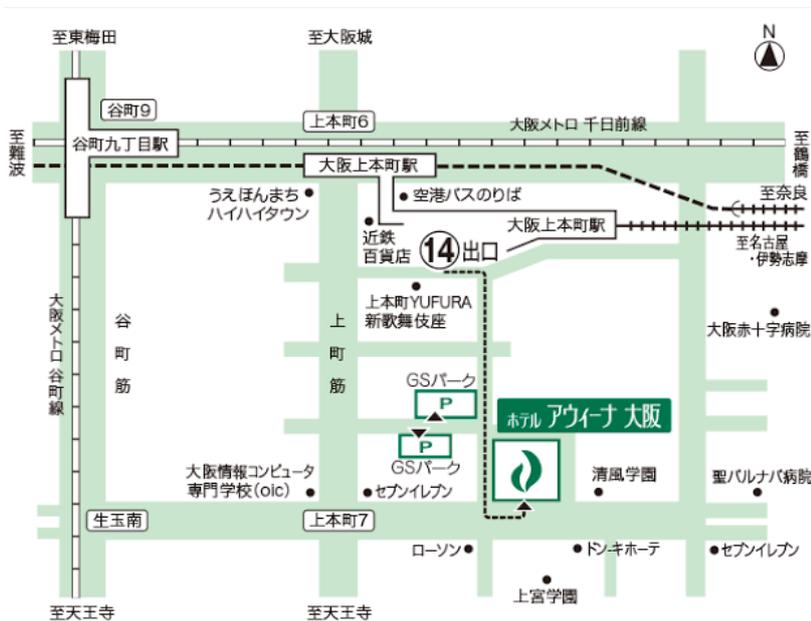
【講師】 石沢誠司氏（関西同窓会顧問：60期）

【会費】 1,000円（テキスト代を含む）

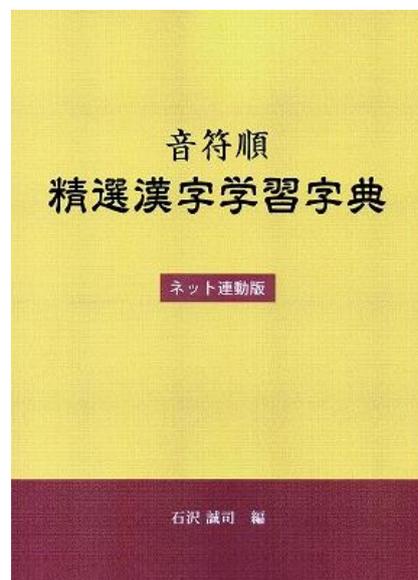
【申込先】 〒635-0013 奈良県大和高田市昭和町 8-11-226 武舎 一夫

email: pretrejean@nifty.com TEL: 0745-53-1237

2月5日（金）までに上記宛にお申し込みください。



会場案内図



テキスト（会費に含まれます）